

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年3月6日(2014.3.6)

【公開番号】特開2012-139327(P2012-139327A)
 【公開日】平成24年7月26日(2012.7.26)
 【年通号数】公開・登録公報2012-029
 【出願番号】特願2010-293396(P2010-293396)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成26年1月21日(2014.1.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

個体識別情報を記憶した遊技機用演算処理装置を有する制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技機用演算処理装置は、ユーザプログラムを記憶するとともに、該ユーザプログラムに係る固有情報をユーザプログラムでアクセス不可能なアクセス禁止領域に記憶する記憶手段を有し、

前記個体識別情報は、第 1 個体識別情報と、前記第 1 個体識別情報と異なる第 2 個体識別情報からなり、

前記第 1 個体識別情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが可能に構成される一方で、前記第 2 個体識別情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが不可能に構成され、

さらに、前記第 1 個体識別情報は、ユーザプログラムを介して外部情報端子から、遊技機外の外部装置側へ出力可能に構成される一方で、前記第 2 個体識別情報及び前記固有情報は、前記外部情報端子と異なる所定の検査端子から出力可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかしながら、ガラス枠等が開放されたことを示す信号を出力しているだけでは、遊技機に対して不正された可能性があることを報知することはできるが、遊技機用演算処理装置を有する制御装置に対する不正の可能性が高いことを外部に報知可能なものとはなっていないかった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 5 】

そこで本発明は、上記問題点に鑑みなされたもので、遊技機用演算処理装置を有する制御装置に対する不正の可能性が高いことを外部に報知可能な遊技機を提供することを目的とする。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 6 】

請求項 1 に記載の遊技機は、個体識別情報を記憶した遊技機用演算処理装置を有する制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技機用演算処理装置は、ユーザプログラムを記憶するとともに、該ユーザプログラムに係る固有情報をユーザプログラムでアクセス不可能なアクセス禁止領域に記憶する記憶手段を有し、

前記個体識別情報は、第 1 個体識別情報と、前記第 1 個体識別情報と異なる第 2 個体識別情報からなり、

前記第 1 個体識別情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが可能に構成される一方で、前記第 2 個体識別情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが不可能に構成され、

さらに、前記第 1 個体識別情報は、ユーザプログラムを介して外部情報端子から、遊技機外の外部装置側へ出力可能に構成される一方で、前記第 2 個体識別情報及び前記固有情報は、前記外部情報端子と異なる所定の検査端子から出力可能に構成されていることを特徴とする。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 0 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 0 7 】

本発明によれば、当該遊技機用演算処理装置を有する制御装置に対する不正の可能性が高いことを外部に報知可能となる。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 3 4 2

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 3 4 2 】

次に、上記の各実施例を踏まえた上で、以下、各実施例から抽出される発明概念について順次、まとめて説明する。

< 実施例 1 等における各制御装置の固有情報出力機能に着目した発明概念 T 1 >

実施例 1 等における各制御装置単独（遊技制御装置又は払出制御装置）の固有情報出力機能に着目した構成の発明概念 T 1 は、下記のように示される。

個体識別情報を記憶した遊技機用演算処理装置を有する制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技機用演算処理装置は、

当該遊技機用演算処理装置が検出可能な遊技機状態を遊技機外の外部装置側へ報知するために遊技機状態信号を出力制御する遊技機状態信号出力制御手段を有し、

前記遊技機状態信号出力制御手段は、

前記遊技機状態信号に対応させて前記個体識別情報を遊技機外の外部装置側へ出力する制御を行う不正可能性報知出力制御手段を有することを特徴とする遊技機。

なお、「遊技機用演算処理装置」は、遊技制御装置の演算処理装置であってもよいし、遊技制御装置以外の制御装置（例えば、払出制御装置）の演算処理装置であってもよい。

また、「外部装置」とは、遊技場に設けられる遊技機からの大当り信号等の遊技機状態信号を収集する管理装置、またはこの管理装置のノードである通信装置を含む他、例えば遊技機に併設される遊技媒体貸出装置としてのカードユニット（ＣＲユニット：カード式球貸制御ユニット）を含めてもよい。なお、カードユニットを含めても良いというのは、前記の管理装置のノードである通信装置を含むと同様であり、カードユニットは、球貸情報を収集する球貸情報収集装置のノードであり、それを利用して個体識別情報を収集してもよいということである。要は、遊技機の外部であって、遊技店側が個体識別情報をチェック可能な装置であればよい。

また、「外部装置側へ」とは、直接的に外部装置へ出力する態様に加えて、外部装置と遊技機用演算処理装置の間に介在する装置等に向けて出力する態様も含むことを意味する

。